

# 南スーダン 60人死亡

## 戦闘拡大、過去1週間で

【ロンドン17時事】ロイター通信によると、南スーダン軍報道官は14日の声明で、政府軍とマシヤール前副大統領派の戦闘や同派による民間人に対する残虐行為で、過去1週間に少なくとも60人が死亡したと発表しました。

それによると、マシヤール

ル派武装勢力は8日から13日にかけて政府軍兵士11人と民間人28人を殺害し、同派も21人を失いました。軍報道官は「民間人を焼殺している」とマシヤール派を非難しました。一方、エチオピアにいる同派スポークスマンは「残虐行為を働いているのは数カ月も給料を

もらえない軍兵士たちだ」と反論しました。

国連南スーダン派遣団（UNMISS）も12日の声明で「この数週間、各地で暴力や武力衝突の報告が増加している」と警告していました。

日本政府は、南スーダンの国連平和維持活動（PK

○）に陸上自衛隊の部隊を派遣しています。南スーダンでは、7月に首都ジュバで起きたキール大統領派とマシヤール派の衝突をきっかけに、昨年の和平台意が無実化して戦闘が再燃しており、再び全面的な内戦に突入する懸念が強まっています。